

令和5年度第1回総合教育会議会議録

開催日時 令和5年5月25日（木）午後3時から午後4時20分

開催場所 美祢市役所3階「委員会室」

出席者

篠田 洋司	市長
南 順子	教育長
金子 明美	教育長職務代理者
山本 亜由美	教育委員
山田 裕治	教育委員
松本 孝志	教育委員

6人

欠席者

なし

出席教育委員会事務局職員

千々松 雅幸	事務局長
宇野 勇氣	〃 教育創生監
岡崎 輝義	〃 教育総務課長
中島 幹晃	〃 学校教育課長
野村 一守	〃 生涯学習スポーツ推進課長
神田 高宏	〃 文化財保護課長兼世界ジョウホ ワーク推進課長
大坪 伸彰	〃 学校教育課主幹
久保 仁	〃 統括コーディネーター
倉増 裕	〃 教育総務課総務班長

9人

（午後3時）

1 開会

事務局長 千々松 雅幸

ただ今から、令和5年度第1回総合教育会議を開催をいたします。

開会にあたりまして、篠田市長が御挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

市長 篠田 洋司

改めまして、皆さんこんにちは。

全教育委員さんの御出席のもと、総合教育会議が開催出来ますこと本当にありがとうございます。

また、平素より皆様方には、市政各般に渡り御理解と御協力をいただいておりますこと、特に本市の教育の振興に当たりましては、本当に格別な御尽力、御支援をいただいておりますことを感謝申し上げます。

誠にありがとうございます。

この総合教育会議というのは、そもそも私の記憶では、大津市の事件とかがありまして、市長の教育に対する施策と教育委員さんの考えのベクトルが一致するというを目的に、教育の在り方全体が見直されて、その中の一つが総合教育会議の開催ということでございます。

従いまして、常日頃から、教育長からいろいろ御報告をいただいておりますけれど、今日は、改めて二つのテーマに絞って御意見をお聞かせ願えたらと思っております。

限られた時間ではありますが、今後とも本市教育行政に対する御支援を賜りますこと、そして、せっかくの機会でございますので、忌たんのない御意見を切にお願い申し上げます、甚だ簡単ですけど、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

事務局長 千々松 雅幸

総合教育会議は、市長、教育長、教育委員によって構成をされております。

本来であれば、お1人お1人、御紹介させていただくところではありますが、御手元の名簿をもって、紹介にかえさせていただきます。

今後の議事進行につきましては、会議の主催者である市長にお願いをいたします。

3 議事

(1) 小中一貫教育取組の成果と課題について

市長 篠田 洋司

はい、以後着座にて進めさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

最初の議題につきましては、「小中一貫教育の取組の成果と課題について」意見交換をしたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

小中一貫教育を令和3年度に美東地域をモデル事業として開始し、令和4年度から市内全域で実施しておりますが、この1年間の取組の成果と課題につきまして、まず、教育長からお話をお伺いしまして、そのあと皆様から御意見をお伺いしたいと思います。

まず、南教育長よろしく申し上げます。

教育長 南 順子

すみません。着座にて説明させていただきます。

それでは美祢市の小中一貫教育について、その目的と主な取組、また成果や今後について説明をさせていただきます。

美祢市は、コミュニティースクールの仕組みを生かして、これまで地域の子供は地域で育てるという視点で、小中連携教育や地域連携教育を進めてまいりました。

さらに、小中学校9年間のつながりの中で目指す子供像を共有し、系統的、連続的な教育課程を編成して、児童生徒のよりよい成長を社会総がかりで支援する小中一貫教育に取り組み、「ふるさと美祢に誇りと愛着を持ち、地域に貢献できる子供の育成」を目指すことにしました。

そのため、令和4年度に学校管理規則を改正し、小中一貫教育校としての歩みを全市で進めております。

美祢市小中一貫教育を充実させるために、全中学校区で次の4点に取り組みました。

一つ目は、それぞれの中学校区の教職員、保護者、地域が共同で取り組むための組織づくりです。

二つ目は、教育目標や目指す子供像を共有し、協働して子供たちの教育に関わることです。

三つ目は、地域の特色を生かした魅力ある学校地域間連携カリキュラムを編成することです。

四つ目は、小・中学校間の交流事業や合同行事などを実施し、児童生徒、教職員同士の交流を図ることです。

初めに、組織づくりから説明いたします。

地域連携教育を基盤とした小中一貫教育が円滑に推進できるように、学校運営協議会を中学校区で一つに統合しました。

これにより、地域協育ネットの事務局である公民館と学校の連携も進んでいます。

どの中学校区においても小中一貫教育が円滑に進むように、管理職によるネットワーク会議を月1回程度開催しています。

特に秋芳中学校区では、校長によるネットワーク会議に公民館長も参加しています。

また、9年間のつながる学びと育ちの実現に向けて、管理職だけでなく全教職員の参加による小中合同研修会も開催して、教職員の相互理解と課題の共有を図り、カリキュラム改善や合同事業づくり等に取り組んでいます。

美東小中一貫教育の二つ目の主な取組は、各中学校区で小中の教育目標や目指す子供像を共有することです。

全ての中学校区でそれぞれの地域の特色を生かしながら、「ふるさとを愛し、誇りを持って地域に貢献できる子供の育成」を目指しています。

取組の3番目として、それぞれの中学校区の地域の特色を生かした魅力ある学校地域連携カリキュラムを令和3年度から作成し、9年間の学びを見える化しています。

これは、厚保小中学校の地域連携カリキュラムです。

特徴は厚保マロネット協議会の機能を生かし、小中だけでなく保育園とも連携し、保・小・中連携による防災訓練や、小中クリーン作戦など地域のボランティア活動にも取り組んでいるところです。

これは、伊佐小中学校の地域連携カリキュラムです。

特徴は、地域住民に学ぶ伊佐学とジオパーク推進課との連携による美祢学を各学年の発達段階によって位置づけ、9年間を通し、触れ合い・知る学習から広げ・深め・発信する学習へと発展させているところです。

ゆめみねット協議会の作成した学校地域連携カリキュラムの特徴は、美祢を語り、夢を語れる地域の担い手の育成と豊かな地域づくりを目指して、小・中・高校の連携による12年間のカリキュラムで自己肯定感を育みながら、主体的に行動する力を育てているところです。

続いて、4番目の小中学校間の交流授業や合同授業について説明します。

小中一貫教育では、授業においても大嶺中、美東中、秋芳中に1名ずつ学園制加配教員を配置し、中学校教員による小学校高学年切磋琢磨合同授業を実施しています。

写真は美東中学校において、毎週水曜日に行われている3小学校合同の外国語の授業の様子です。

3小学校合同の授業による学び合いは、子供たちにとっても楽しく、みんなで勉強するのは面白いという感想が多く聞かれています。

ただ、移動にかかる時間などの課題もあり、小中合同でよりよい解決策を考えているところです。

これは、伊佐小学校で行われている小中合同縦割り班活動いさゆめタイムの様子です。

マスコットキャラクターいさゆめちゃんは、堀越出身の苑場凌さんがイラスト化されたもので、まさに伊佐中校区の小中連携教育のシンボルです。

この写真は、大嶺小中学校区で行われているゆめみねット熟議の様子です。夏休みに小学生、中学生、教員、地域、保護者、公民館による熟議が行われました。

美東中校区においては、令和3年度から、他の中学校区においては令和4年度からの取組でしたが、各中学校区を中心とした管理職をはじめ教職員のおかげで、小中一貫教育の成果として五つのことが挙げられます。

一つ目は、児童生徒の交流が促進したこと。

二つ目は、小中学校の教職員同士の連携が深まったこと。

三つ目は、小学校間の連携が進んだこと。

四つ目は、学びの連続性が強化されたこと。

五つ目は、中学生の学ぶ意欲の向上や、意識行動の変容が伺えるようになってきたことです。

初めに児童生徒の交流の促進ですが、大嶺中学校区で実施されたゆめみねットの夏休みアートプロジェクトは、久保修さんの作品をモチーフにして小中高生が集まり、巨大アートを作成し美祢駅に掲示しました。

このプロジェクトは、児童生徒が直接交流するとともに、高校生も参加した小中一貫のシンボリックな行事と言えます。

小・中・高校生が力を合わせて完成した作品は、評判を呼び街を明るくする取組として地域貢献も果たしています。

このような取組は、地域の担い手の育成と豊かな地域づくりに着実につながり、学校教育を通じてよりよい社会をつくる人づくりと地域づくりの好循環の創出を目指すものでもあります。

合同授業の実施により、子供たち同士の連携が促進されたのはもちろんですが、教職員の連携も深まっています。

写真は、美東小中学校での、中学校教員と3小学校教員による外国語の合同授業の振り返りの様子です。

このように、小中の教員が一緒に事業の振り返りを行ったり、授業研究も行った中で、小・中学校の教職員の授業力も向上してきました。

小学校、中学校それぞれの教員が小中の違いを理解し、お互いに尊重し合いながら、子供の成長や教育目標の実現に向けて話し合いを進めることは、小中一貫教育を円滑に進める上でとても重要であると考えています。

小中一貫教育を進めることで、校区内の小学校間連携も促進されてきました。

写真は学園制加配教員による麦川小と大嶺小6年生によるオンライン合同授業の様子です。

小中の教員がともにカリキュラムを作成することにより、学びの連続性が強化される例も見受けられました。

写真は、豊田前小、麦川小で児童が炭坑節を踊っていることにヒントを得て、大嶺中学校の音楽科教師が炭坑節を教材にして授業を行っている様子です。

数値的な成果としても、毎年市教委が実施している生徒による授業評価において、令和4年度は授業に興味を持って取り組んでいると肯定的に回答した中学生の割合が、令和3年度に比べて約4ポイント上昇しました。

同じく市教委が毎年、中学校3年生を対象に行っている生徒アンケートによると、大嶺中学校では「あなたは今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対する肯定的回答率が、例年より約10ポイント上昇いたしました。

また、「あなたは大人になっても、今住んでいる地域に住みたいですか」の質問に対する肯定的回答率も優位に上昇しています。

このような生徒の学ぶ意欲の向上や意識・行動の変容は、小中一貫の仕組み

を効果的に活用し、従来の取組をより強化したために得られた成果だと考えています。

小中一貫教育にはまだ様々な課題はありますが、一つずつ解決を図りながらさらなる小中一貫教育の充実を目指して、三つのことに取り組んでいきたいと考えています。

一つ目は、学校の魅力化、いわゆる子供ファーストで楽しい夢のある学校に向けた全中学校区での水準の向上です。

一人一人の子供のよりよい成長を支援する教師の指導力の育成、美祢市ならではのジオパーク推進課との連携による、子供たちの興味関心、発達段階に即した魅力ある美祢学の体系化、バスツアー等による五感を働かせたジオパーク体験学習の充実、A L T、慶應義塾大学 S F C との連携による異文化体験と多様性の尊重、Q u b e n a やロイノート等 I C T 機器の効果的な活用による主体的な学びの創出、二つ目は、お互いの違いを認め合い、励まし合い、支え合う、9年間の系統的、連続的な心の教育の推進です。

いじめの根絶、不登校の児童生徒の思いを受け止め、寄り添う支援体制と心を育てる言葉の力による子供同士、子供と教師の信頼関係の構築、また、望ましい生活習慣や学習習慣の定着など、継続的な支援が必要なことこそ、小中一貫教育ならではの強みを生かして、取り組んでいきたいと考えています。

小中一貫教育を充実させるために、教職員の意識改革を進める取組も始まりました。

これは、美祢市中学校長会が提案したものです。

小学校は、川の源流、一番大事。

愛情を受け、山の栄養いっぱいに含んだ子供たちが、自分の可能性を広げ世の中の役に立つための旅に出る。

小学校教員は、自分たちが育てた子供たちの成長を山の上から見守り、自分たちの指導を振り返り、また、目の前の子供たちへ愛情を注ぐ。

育った子供たちを見守ることは、今、目の前の子供たちのためになる。

中学校は川の本流、様々な源流から流れ込んだ子供たちが混ざり合い、切磋琢磨し合いながら自分を高め、やがて、それぞれの海に出ていく。

中学校教員は進んで山に木を植える作業を手伝い、その山の特徴を理解し、小学校から流れ込んでくる天然の清水たちを心待ちにする。

素材のよさを生かし、さらに知力や体力に磨きをかけ、それぞれの道を共に開いていく。

小学校を川の源流、中学校を川の本流にたたえ、各教職員の視野を広げ、仕事のやりがいを深めるという意図でつくられています。

これからも、「ふるさと美祢に誇りと愛着を持ち、地域に貢献できる子供の育成」を目指し、社会総がかりで力を合わせ、学校の魅力化に取り組みながら、人づくりと地域づくりの好循環を創出するための工夫を続けていきたいと考えています。

御清聴ありがとうございました。

市長 篠田 洋司

説明していただきまして、ありがとうございました。

ちょっとお尋ねしていいですか。

小中一貫教育の成果について、中学生の学ぶ意欲の向上や意識、行動の変容が伺えるとありますよね。

これアンケート結果ではそうなのかもしれませんが、具体的には何かこういった事例とかこういった流れ、動きとかございますか。

教育長 南 順子

現場の状況をお願いします。

学校教育課長 中島 幹晃

学校教育課の中島でございます。

中学生は、本当に小学生と交流することを積極的に楽しみにするというか、縦割りで行事等を進めることにとっても興味を持っているという傾向を非常に現場では感じておりました。

ですから、自分たちでどんなことがしたいというような提案を求めたときに、縦割りで何かしたいとか、学校の枠を超えて小学校や地域と連携して物事や何か行事をやってみたいとか、そういう発言というのが増えてきているように感じております。

市長 篠田 洋司

それと小学校の先生と中学校の先生が、いろいろな会議をたくさん持たれたり協議されたりとかいう機会が多分ものすごく増えたと思うんです。

その分、教員の負担が気になるところですが、その辺で、やはり人間って時間は一緒に限られていますから、その時間を削って、いろいろな工夫をされて負担を軽減させて、本当にしっかり児童生徒等一人一人に向き合うという時間の確保も必要だと思います。

その分どうしてもこの部分は地域にお願いするとか、行政へのお願いも含めてですけど、そういったものもあっても、不思議じゃないかなとは思いますが。その辺は何か計画とかしていらっしゃるしたら、教えていただけますか。

学校教育課長 中島 幹晃

はい、市長さんのおっしゃったとおりですね。

先ほど、3枚ほど、学校地域連携カリキュラムというのがあったかと思えますけれども、小中一貫を進めていく上で目指す子供の姿、9年間を通してのどのような目標のもとに子供を育てるかというところを、熟議で話し合って設定し

ています。そここのところでプラスになる、そこに組立てていくというふうな発想です。ですから、逆を言うと大切なことであっても、そこに少し合わない、あるいは今ではないようなものは沈めたり、カットしたりして、目標の共有というところに基づいての小中一貫を進めています。今までの小中連携の段階だと一緒に研修会等も行ってたのですけれども、共通の目標がぼんやりしておりましたもので、時間をただ費やして子供の情報交換に終わってしまうというようなことがありました。けれども、同じ会議の時間を取るにしても有意義な会議、目標に応じたその子供たちの成長を促すために何が必要なのかというふうに、質の高い研修になっているので、そのおかげでいい循環が生まれていて、その循環が良く生まれれば、逆に教職員の業務改善というところにもつながっていくのかなと思っています。

今後、また、そういうふうに進めていきたいなと思っています。

市長 篠田 洋司

いろいろな方に御尽力いただきましたけれど、本当に感謝しているわけです。確かに地域貢献できる子供とか、この地域に住み続けられる、住み続けたいと思うこの比率とか、そういったものは、非常に大事だと思いますが、何よりも大事なものは、本当に幸せ感があるかどうか、幸せかどうかだと思います。

やはり人間は、誰しも幸せになるために生まれてきたというのが私のモットーですけれど、この前、静岡の保育園で園児の置き去りという本当に悲しい事件がありました。そのお父さんが、「この子は、本当は後から改善策をこうします、今後はこうなりますといった行政を動かすために、生まれてきたんじゃない。」とコメントをされていますように、本当に子供たち一人一人が幸せになるために生まれてきたのだと思います。

ですから、今知りたいのは、本当に子供が幸せかどうかです。大部分は幸せだろうとは思いますが、やはり、今後確かにK P I、行政が出すK P Iというのは、率で何%が肯定感持っているから、それが上向いているからいいのだという考えも当然あります。

それも突き詰めていかなければならないのですけれど、今後可能だったらですね。肯定的じゃないこの10何%という深掘りが必要だろうと思います。

というのは、私の考えとしては今、世の中がSDGsに動いています。

持続可能な開発目標、アジェンダ2030というのに、前文に「我々は共働の旅路に乗り出すにあたり、誰1人取り残さないことを誓う」というふうに、記載されています。

やはり、今からSDGs教育やそういう考えが、もう普通になっていくのではないかなと思いますので、今後、否定的な子、不幸せを感じている子がどうかっていうことを考えていただけるよう希望いたします。

そのために必要な事業とか、また逆に、人員も含めてでしょうけれど、いろいろ御提案いただかなければという感じを受けています。

総論的には、本当に一生懸命子供たちのために取り組んでいただきまして、ありがとうございます。引き続き御支援をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは各委員さんから御意見をいろいろ頂戴したいと思います。教育長は何かございますか。

いいですか。

はい、各委員さんよろしくお願ひします。

教育長職務代理者 金子 明美

それぞれの中学校区で、地域の特色を生かした小1から中3までの9年間を目指した地域連携カリキュラムが編成されています。

系統的で発展的な素晴らしいカリキュラムだと思います。

今後の事なのですが、本カリキュラムをしっかりと活用して、さらにジオパーク推進課との連携とかを図りながら実践、見直しをしながら子供たちに地域の良さとか美祢市の良さを学ばせ、ふるさとに美祢に誇りと愛着を持ち、地域に貢献できる子供の育成を目指していただけたらなと思います。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

続きまして、松本委員さんよろしくお願ひします。

教育委員 松本 孝志

はい、失礼します。

先ほど感想でもありましたけれども、まだ1年という実施期間であります。本当に各学校、それから地域の皆様、協力して成果を出していらっしゃるというふうに思っております。

先ほどの発表の中で私が特に気になったというか大事だなと思ったのは、小学校と中学校の教員の授業の打合せとか、振り返りの紹介がスライドでありました。私は、そういう取り組みはすごく大事だなと思っていて、是非こういう交流や授業に関する交流も含めて、積極的にこれからも取り組んでいてもらいたいなと思います。

この一貫教育の中ですごく大事にしたいのは、中学校の良さ、教科授業であれば教科専門性の高い授業であるとか、小学校であれば一人一人に寄り添ったきめ細やかな授業とかですね、そういうお互いのよさを学んで授業の質を高めていくということはすごく大事だなと思っていますので、是非この辺については、これからも取り組んでいてもらいたいなと思います。以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

それでは、山田委員さん。

教育委員 山田 裕治

失礼します。

この小中一貫が始まって多分2年目で、今年で3年目になると思いますけれど、最初、私がこの教育委員をさせていただいて、小中一貫の学校の方も先進校といいますか、視察に行ったりとか、美東中と大田小が最初に取り組みをされていたというのがあって、もう訳も分からずずっと聞いていたのですけれど、4年目になってこれだけ広がってきたといいますか、皆さん一生懸命取り組んでこられてきたと思います。

しかも、地域との連携っていうものをすごく大事にされてやってこられているのが非常にいいことだなと思っております。

確か前回篠田市長が、「今の子供たちがこの美祢に残ってくれる。将来帰ってきてくれたらいいなという思いがある」とおっしゃったような気がします。

なるほど、これが進んでいくと、多分そのような思いをもつ子供たちがもっと育ってくるのではないかと考えています。

それと今日この説明をずっと聞きながら、これって昔、私たちの時代の昔の子供会のような感覚を持ちました。小さな子供から大きな子供たちが一つになっていろいろなことをやっていくという、そういう中に地域も関わっているいろいろなことをやっていく。これなのかなとちょっと言葉が分からないですけど、そういうふうに思っております。以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

山本委員さん。

教育委員 山本 亜由美

失礼します。

一保護者としての願いもあるのですが、子供にはやはり学校が楽しい場所であってほしいし、笑顔で学校へ行ってもらいたいというのが親の願いだと思っています。

魅力ある学校づくりのために、子供たちのやりたいことや興味のあることを取り入れつつ、小中一貫になったことで、今まで以上に楽しいことや学べるが増え、子供たちが行きたいと思える学校づくりを目指せたらいいのではないかと考えています。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

貴重な御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

また、皆様の御意見を参考させていただきながら、今後これがもっともっと

子供たちにとっても、本当に素晴らしい一貫教育であるように進めてまいりたいと思います。

多分、一貫教育っていうのは取り組み始めてまだ日が浅いので、皆さんのイメージがそれぞれ違うと思うのです。これをやってほしい、あれをやってほしいとか、もっと我々は、今後この一貫教育のあるべき姿というのを一方で走らせながら、一方で深掘りしていく必要があるかと思います。

これについては我々ももっともっと勉強したいと思いますし、いろいろな方を巻き込んで勉強してまいりたいと思います。今日いただいた御意見を参考に魅力ある学校づくりに、例えばですけど、そういう勉強会の開催であるとか、検討委員会の開催とかを進めさせていただいて、委員さん方とはキャッチボールしながら、今後も魅力ある学校づくりに力を尽くしてまいりたいと思います。

よろしくをお願いします。ありがとうございます。

一つ目の小中一貫教育の取組の成果と課題については、ここで一旦閉めたいと思いますけれど、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

(2) 部活動の地域移行について

市長 篠田 洋司

はい、それでは続きまして「部活動の地域移行について」を議題として、委員の皆様と意見交換をしたいと思います。

こちらのほうは、令和4年の9月から美東中学校をモデル事業として休日に部活動を地域移行し、令和5年度から市内全域を対象にして、種目では、サッカーと剣道が地域移行しておりますけれど、まずは教育長からお話をお伺いして、皆様の意見をお伺いしたいと思います。

それでは教育長、よろしくをお願いします。

教育長 南 順子

失礼いたします。

それでは、「美祢市立中学校における休日の部活動の段階的な地域移行を含めた部活動改革について」説明いたします。

中学校の部活動の地域移行を急ぐ背景として過疎化、人口の減少、そして、一番に少子化の影響がございます。

一市二町が合併した直後には22校あった小学校が現在は11校に、8校あった中学校が5校になりました。

そして、児童生徒数は僅か10年余りでおおよそ半数になっております。

この傾向は残念ながら歯止めがかかっていない状況です。

これは、令和5年5月の市内の5校の中学校の部活動設置状況です。

小規模校の伊佐中、厚保中では、運動部の選択は男女ともに二つしかございません。

運動部以外の選択肢は、大嶺中と美東中の吹奏楽部だけで、ほかの中学校では、文化部の設置がありません。

このように、本市では冒頭で申しましたが、少子化の影響や、先ほどの生徒数のニーズに对应されていないこと、教職員の働き方改革などにより、現行の部活動を維持することが困難となっており、各学校の努力では解決することが出来ないだけでなく、複数の学校で合同チームを編成することも困難な状況となっています。

そのため、生徒のスポーツ活動や文化活動を持続可能にしていくためには、中学校区の枠を超えた地域のスポーツ活動、文化活動として移行するしか方法がない状態です。

ですから、今、動き出さなければ、数年先の状況はさらに悪くなり、待ったなしの状態と言えます。

美祢市が抱えている課題は、実は日本全体でも、過疎化が進む中山間地域では共通の課題でもございます。

学校の部活動は、指導者、参加者、活動場所は基本当該校の教師、生徒でしたが、このたびスポーツ文化庁が地域移行に関して描いているのが、右に示す休日の地域クラブ活動のイメージとなります。

ここで、国が示した休日の地域クラブ活動について、もう少し詳しく見ていきます。

部活動は、基本的に学校から切り離され、実施主体は地域にある様々な団体組織が担うこととなります。

また、活動場所については、市や民間が所有する全ての施設の使用を視野に入れていきます。

費用については、運営団体、実施主体が生徒や保護者、地域住民等の理解を得つつ、活動の維持運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な会費を設定することとなります。

市としては、例えば地域クラブ活動に関わる施設使用料を低廉な額としたり、送迎面の配慮を行ったりするなどの支援を行うとともに、経済的に困窮する家庭の生徒の地域クラブ活動への参加費用の支援など、今後の課題と考えています。

この図では、2の1や、特に2の2のように部活動を学校から切り離すということはこれまでに全くなかった新たな雇用の場を生み出す大きな機会でもありますが、本市では地域の受皿や実情を考慮し、まずは2の1の地域との連携を考えています。

仮に、2の2の民間事業者になりますと、民間事業者の立場としては地域貢献もあり、長い目で見ると雇用の確保にもなりますが、一方、保護者の立場としては会費制も考えられ、保護者の経済的負担も大きくなります。

令和4年度に開始した美東中の活動は、この図の左側のイメージとなります。今後、市内の他の中学校へ波及させていく形は3の1に加えて、野球など集

団が必要な競技は、合同部活動の形態で3の2を取り入れ、移行した後、右側の図のイメージとなる必要がございます。

次に、令和4年度の具体的な取組では、美東中学校において休日の地域移行の実践研究をはじめ、全ての部活動に地域活動指導員を配置しています。

経費に関しては、現在は委託事業で国の支援を受けていますが、今後、全国的に展開され地域移行が定着されると、国の支援が終わる可能性が懸念されます。

令和4年度は、部活動改革推進協議会を立ち上げ、地域の方々と持続可能なスポーツ文化活動の在り方などを協議しています。

この推進協議会では、保護者の経済的負担など様々な反応や発言が出てきています。

令和4年度から令和6年度までの3年間で改革推進期間として、美祢市内全ての中学校において、休日の学校部活動の地域移行の取組を実施し、平日の学校部活動の地域移行については、休日の学校部活動の地域移行の進捗状況を踏まえ、可能なところから取り組むことにしています。

令和5年度の取組予定です。

1について、今月末に令和5年度の第1回的美祢市中学校部活動改革推進協議会を開催いたします。

委員は12名、オブザーバーとして各種目団体関係者24名を予定しております。

2と3につきましては、実施可能な種目や学校から改革を始めております。サッカー、剣道については、既に地域移行を終えています。

野球、水泳、バレーボールについて、受皿となる可能性のある団体や関係者と今月末までに協議を始めております。

4番目、美祢市で運行されているコミュニティーバスのアンモナイト号の運賃を中学生以下無料とすることで、公共機関の活用しやすさを高め、保護者の経済的な負担の軽減につなげたいと考えています。

5番目、様々な機会を捉え、部活動の地域移行に関する情報発信もしていく予定です。

6番目、少ない選択肢の中で、スポーツ文化活動をしている本市の生徒に様々なスポーツ文化を体験できる機会になればと、Mチャレなどのスポーツ文化イベントを設定しました。同時に、子供たちのニーズの把握にも活用できると期待しています。

7番目、令和5年度より地域移行に関する総括コーディネーターを任用しております。中学校部活動改革推進協議会に関する業務や関係団体間の調整等を行い、部活動改革全般について業務を行っております。

久保総括コーディネーターが、今、担当してくれております。

参考までに、こちらは部活動を完全に地域移行した場合で、他種目の競技や文化活動、それからmine toの活動を行っている、ある中学生の1週間をスケジュール化したものでございます。

将来、中学校から部活動がなくなります。

これまで平日は放課後、休日や夏休みなど長期休みの間も学校部活動の指導に時間をとられていた教員が、時間と労力を、本来の業務である日々の授業や教育活動の準備に充てるできるようになります。

授業改善、学力向上、不登校生徒の減少といった成果を、学校には期待したいです。

学校は、本来業務の中で、子供たちにとって魅力あるものになっていかなければならないと思います。

先ほど市長さんの話にもありましたように、「一人も取り残さない、誰も取り残さない」そういう学校、教育を目指していきたいと思います。

また、生徒数の減少は教員数の減少でもあり、競技経験や専門性がなくても、校務分掌として割り振られた部活を担当する状況が生じていました。

教職員は、転勤があるので長期的な指導の安定は望めませんでした、その点も解決されることが期待されます。

美祢市にある大部分の小規模校の生徒は、限られた種目の選択しかありませんでしたが、学校区に限らず、生徒が自身のニーズに応じた活動内容や種目を選択することができるようになります。

種目の掛け持ちや季節に応じた変更も可能になってきます。

他校の生徒や教職員、運営団体の指導者など、より多くの多様な人間関係も経験する機会にもなります。

解決すべき課題もございます。

運営団体や地域指導者には、専門的技術的な指導に加え、これまでの教育的な資質も兼ね備えてほしいところがあります。

そのような人材や団体を確保することが、非常に今現在難しい状況でございます。

学校から部活を切り離し地域でスポーツ文化活動を行えば、当然会費、指導料、施設使用料など、そういった経費が発生します。

活動によっては、自宅や通学している学校から離れた場所になるので、送迎が必要となります。

家庭の都合によっては、送迎が無理ということもあります。

経済状況や家庭環境を理由に、参加出来ない生徒が生じることが予想されます。

最後になりますが、これまで部活動が担ってきた意義や成果を受け継ぎながら、子供たちの多様なニーズに応じた自己実現が果たせるような、未来志向の持続可能な活動となるように、部活動改革をこれから推進していかなければなりません。

部活動の地域移行を実現するためには誰も否定し得ない、とても大きな課題があります。

美祢市の子供たちのため、美祢市の未来のため、官民が一体となって協力し、

知恵を出し合い、一つ一つ解決方法を見つけながら進んでいく他はございません。

中長期的には、今後、美祢市全体のスポーツ文化活動をどのようにしていくのか、生涯学習の視点で考えていくことが大切です。

サステイナブルな、ウェルビーイングな美祢市の将来像を描くと、この部活動改革は、美祢市に関わる全ての人々にとって、待ったなしのとても重要な改革だと考えられます。

以上でございます。

市長 篠田 洋司

はい、ありがとうございました。

今、説明がございましたけれど、まずは御質問か何かありましたらよろしいですか。私から質問ですけど。3ページ、これで言うと6ですが、休日の地域クラブ。その中でこれは、文科省のイメージですか。

例えば費用は可能な限り低廉な会費とかあるのですけれど。

久保総括コーディネーターどうぞ。

はい、よろしく申し上げます。

総括コーディネーター 久保 仁

失礼します。

今教育長さんの発表の中で、御紹介にあずかりました総括コーディネーターをしております久保でございます。

今、市長様から質問があったページについてですが、これはスポーツ、文化庁、これがガイドラインの中で、概要の中で示している図でございます。

スポーツ庁がイメージしたものでございまして、美祢市にそのまま当てはまるといったものではないというふうに思います。

以上です。

市長 篠田 洋司

これはなかなか難しい案件でなかなか調整も難しいとは思いますが、まず委員の皆様から御意見とか御要望とか何でも結構でございます。

教育委員 山本 亜由美

保護者の中で、一番関心が高いのがこの部活動問題ですけど、やっぱり小さい学校は部活動が選べないのですね。

運動をやりたくない子も運動部に入らないといけないという状況ですけど、地域に任せることによって、選択が増えるというのは、子供たちにもありがたいことなのかと思うのですが、移動手段が一番の問題だねという話にやっ

ぱりなるのですよね。

親の手を借りないといけないということになれば、やっぱりやらせてあげたいのだけれど、参加させてあげられないということも出てくるし、子供もやっぱりやりたいのになあと思う子も出てくると思うので、その移動手段というのは、この地域移行になっていくときにはちゃんとしてほしいなというふうに思っています。

そして、もう一つが地域移行になることによって、今まで無料で出来ていたものが、お金がかかってくるのではないかということですが、やっぱり親の経済的負担を減らすためにも、市の施設を使うときには無料で使わせていただきたいという話はよく出ます。

市長 篠田 洋司

はい、山田委員さん。

教育委員 山田 裕治

はい、私はちょっと受けている側から言わせていただきます。

吹奏楽部、美東中を受けております。

現在は非常に楽しくやっているみたいなので、うれしいことなのですけど、先ほど山本委員さんが言われたように費用負担ですね。

会場の負担をやっぱり考えていただきたいとか、移動の問題とか吹奏楽部だと楽器が高いですね、もし、個人の物にすれば、それをどうしたらいいのかとか保管場所をどうしたらいいのかとか、そういうことがあります。

あとはそうですね。このたび美東中に小学校から入学した子が、6人も入ってきたのです。

6人も吹奏楽部に入ってきてくれて非常に喜んでいるのですけれど、この他、この子たちも現在やっている上の子たちも大会に出たいというのですね。何もやったことないのが、大会は8月です。そんな簡単にできるものではないのです。それで、今ほぼ毎日やると言っています。

行って教えてはいますけれど、その費用負担というのは別に構わないのですけれど、何らか、例えば、継続するに当たってはやっぱり少しは考えてもらえたら助かるかなという気はしています。

あとは、子供たちが楽しくやれば一番それがいいのかなという気がしているので、あまり外部から、もっといい人をよく探してよとか、そのようなことがない方がいいのかなと。うちの目標とすれば、子供たちが楽しく3年間過ごさせて、その中で自分がいいと思えば、高校に入ってもそれを続けていけるような状態にしてやりたいなというふうに思っているのです、要は楽しくやればいいなという気持ちでやっております。

市長 篠田 洋司

はい、ありがとうございます。

松本委員さん。

教育委員 松本 孝志

はい、失礼します。

今後のことになるのかなとは思いますが、自分自身が今一番気になっているところは、いずれいろいろな立場の人がこういうスポーツ活動とか文化活動を進めていくことになると思います。

ただそうなるとその活動が、例えば競技力を高めることのみを重視するとか、勝利至上主義というか、そういうふうになってはいけないのではないかなと思っています。

今ありましたように、活動の楽しさであるとか、人間形成というか、教育的な視点を大切にする指導というのが大事なかなというふうに思います。

そのために、出来たら例えば市全体の活動を統括するような組織があって、その組織が中心になって定期的な連絡会議を開いたり、指導者としての資質に関するような研修をしたり、あわせて事故防止の安全管理の研修もしていくというような形がとれないのかなと今、思っております。

以上です。

市長 篠田 洋司

今の事故防止っていうのは、生徒さんのけがの防止ですか。それとも移動とかのそういう事故ですか。

教育委員 松本 孝志

今、私が言ったのは活動中の生徒の事故ですね。

市長 篠田 洋司

金子委員さん。

教育長職務代理者 金子 明美

選択肢が増えて、やりたいという部活動や種目に取り組めるということは、本当に子供たちにとったらいいことではないかなというふうに思います。

先ほどのスライドの中にもありましたけれども、この安定的な指導を受けるためには、今、平日の地域活動指導者の発掘、そして、育成、これが本当に大きな課題ではないかなというふうに思います。

今もきっとされているとは思いますが、地域の中には、今までスポーツ、それから文化活動に携わってこられた方がいらっしゃると思いますし、部活動の改革というのは本当に大きな変革だと思います。

こういうふうな変革について御存じでない方もいらっしゃるのではないか

などと思います。

それで、今もしておられると思いますけれど、やはりここで、情報発信がとても大切ではないかなと思います。

先ほどのスライドにもありましたけれど、ホームページとかMY Tとか、市報の記載とかですね、いろいろな公民館の会議とかの後で、そのようなコーナーを設け、ちょっと話をさせていただくとかですね。様々な方法で広く市民の方に呼びかけられてはどうかというふうなことを思います。なかなか難しい課題であるかと思います。

以上です。

市長 篠田 洋司

教育長何か。

教育長 南 順子

ほとんどの御意見と同じですけれども、やはり、この部活動改革を将来的に美祿市の子ども達のために本当に持続可能なものにしていくためには、今のよう組織づくり、体制づくり、そういったことが本当に大事じゃないかと思っております。

今、久保コーディネーターが、それぞれの団体の指導者と休日移行に向けて、話し合いをしてくれておりますが、そういったことを担う組織が必要です。それに、移動手段、経費の問題と、教育委員会の一つの課だけでやっていくのはなかなか難しいので、いろいろなところと連携をしながら、本当に子どもたちのためにどういうふうにしたらいいかということをしつかりと考え、進んでいけたらと考えております。

市長 篠田 洋司

はい、ありがとうございます。

久保総括コーディネーター何かございますか。

総括コーディネーター 久保 仁

今回の地域移行は、実はスポーツ文化庁が先頭になってガイドライン出してやっているのですが、それを受けて、各県も今動きはじめたところです。

山口県も県のそのガイドラインが、実はできていないのです。今、鋭意作成中だと聞いています。私自身が感じているのが、ちょっと国のほうのトーンが下がったところもあるということです。パンと国のガイドラインが出て、いろいろな反応が各方面からあったのでしょうか。

「地域移行って本当にできるの」とか、「今まで各学校が部活として担ってきた教育的な価値だとか、異年齢集団の中で競技で集団を高めていく。そういったものを地域移行して継続できるの」といういろいろな反応があったのだら

うと思います。

国としても、ちょっとトーンダウンせざるを得ないのかもしれませんが。

ただ、この機会を逆に言えば逃してしまうと、今後、学校の部活動の改革は出来ないだろうと思います。

現状、市内の部活動の状況はピンチですけれど、この機会を是非前向きに子供たちのために考えて、先ほどからずっと出ています持続可能な新たな仕組みを作るうえで、良いチャンスにしなければと思います。

美祢市の子供たちイコール美祢市の未来です。

そこを肝に据えて、是非この改革については、本当、今教育長さんがまさに言われましたが、一課がやるのではなくて、一コーディネーターがやるのではなくて、組織的に、大きな組織として中・長期的な視野を持って進めていくことが大切だと思います。

話の中に「官民で一緒にやりましょう」ということがありましたが、まさに公だけに任せて、おんぶに抱っこじゃ駄目だと思います。

住んでいる地域の方々あるいは保護者、地域のコミュニティ全体、ちょっと言葉が過ぎますけどコミュニティとしての実力が問われていると思います。

例えば美祢市の保護者であれば、車で送迎できない家族がある場合は、みんな協力し合って、乗せて行くとかですね。

あるいは地域の中に眠っていた新たな指導者が現れるとかですね。

美祢市のコミュニティの実力に私自身は期待をしておるところでございます。以上でございます。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

なかなか難しいですよ。難しいけれどサッカーのように、何か指導資格を競技団体でつくっていらっしゃるそこはいいのですけれど。私ずっと野球連盟に理事として、野球の審判もやりながら入っているのです。今は顧問という形ですけれど、指導者の指導が一番難しい。昔は、ベンチに帰って暴言吐く監督を退場させたことがあるぐらい。いやいやそのぐらいやっぱり指導者の指導というのが非常に大事で、だから、基本的に私の考えとしては、個に頼まない。組織、競技団体の存続、維持、また発展のために、基本的には競技団体をお願いしたいと思います。

平日はどう指導するかというと、やはりそれぞれの市の職員も使いながら、市の職員はもう職務専念義務免除を発すればいいので、ローテーションを組みながら、市の職員も、その組織競技団体に入らせて、そこから派遣という形が望ましいのではないかなと思います。

今、委員さんから施設の利用料の件がございました。

これはもう前向きに、早速でも先行してでもやっていければと思いますので、パスポート券というイメージですよ。

小中学生は、パスポート券で、極端な話、観光施設も無料とかいうようなものが出来たらなということで。どっちにしろ、条例改正が必要ですので、前向きに取り組んでまいりたいと思います。

松本委員さんが言われた本当に勝利至上主義では駄目だと思います。

部活動とか中学校の中学生が活動する意味ではやっぱり教育的な視点というのが何よりも大事だろうと思います。

事故防止策に最大限努めたり、保険に加入したりしていかないといけないと思います。勝利至上主義をしたい、もうこの競技を徹底的に極めたいという方は、野球とかであればクラブチームに入っていたら、それでいいのではないかなと思っております。

あと、山田委員さん言われたほんと吹奏楽はですね、会場どこで練習するのかというのも大事だろうと思います。

楽器を、移すだけでも少々じゃない時間と手間がかかりますので、これはちょっとなかなか難しい問題ですけど、美祿市内には、多分、美祿高が吹奏楽が強かったから、うちの妹もそうなのですけど、あそこで吹奏楽がしたいということで、吹奏楽経験者が結構いらっしゃるから、本当はその人達に市民オーケストラでもつくってほしいぐらい。状況によっては、本当に極端な話ですよ。国際芸術村の活用であるとかですね、そういったのも視野に入れてもいいのではないかなと思います。

いずれにしても子供たちにとっての一番の魅力は、自分がやりたいスポーツができるということだろうと思います。選択肢が広がる、是非その夢を潰さないように、こちらとしては本当難しい問題ですけど、久保先生が言われたように、今、ある意味、もうチャンスとしてとらえて、教育委員会だけじゃ難しい部分があると思いますので、市挙げて取り組みたいと思います。

また、委員の皆様には、今後ともこの件についてはいろいろな御意見をいただきながら、また御相談させていただきながら進めてまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

教育長何かありますか。

よろしいですか、この件はまたやりましょう。また、次のジャッジが必要なきときには委員の皆様方に、御相談させていただければと思います。

今後とも、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

怪我防止のための、これにはないけれど総合的にトレーナーとか専門的な人をやってストレッチの仕方であるとか、そういうのも本当に子供たちのためになる何か目玉をつくっていききたいなと思っております。

(3) その他

市長 篠田 洋司

一応テーマとしては、今日二つほど挙げさせていただきました。その他で委員の皆様から何でも結構でございますので、御意見とか御要望とか、ありまし

たら、どうぞ。

委員 松本 孝志

はい、失礼します。

特に議題というようなことではないのですけれども、これまでも各学校すごくよく取り組んでおられるのですけれども、私が今気になってるICTの活用についてです。各学校とも、学校訪問とかにいても積極的に取り組もうとされています。

ただ、まだまだ学校間であったりとか、教員間で温度差があるのかなあという感じがしております。

是非ですね、これが本当に魅力的な授業づくりにもつながるし、効率的な学校づくりにもつながってくるのではないかなと思っているので、しっかりと活用してもらいたいなという私の思いがあります。

また、いろいろな研修とか指導とかもしていただけたらなというのが、願いであります。

ちょっと協議ではありませんけれど、そういう思いを持っております。

以上です。

市長 篠田 洋司

私は二つほどですね。ちょっと、これどうなっているのだろうかというのが一つがタブレットの問題です。

せっかくタブレットを導入しましたので、まず、先生の指導方法とかもあるので、やはり今だにタブレットの活用が出来ないとか活用が少ない子供さんの把握やフォローというのが必要ではなかろうかと思えます。

学校教育課主幹 大坪 伸彰

はい、失礼いたします。

学校教育課主幹の大坪です。

ICTの活用につきましては、かなり各学校で、工夫をした取組がされております。

美祿市ではAIドリルのキュビナを導入しておりますし、あとはマイクロソフトのTeamsを使った学習、それから各学校でロイロノートという、それぞれの考えを共有できるようなソフトを導入して、ICTの活用を進めております。

ただ、松本委員さんが言われたように、学校間での格差は大分少なくはなってきたのですけれども、まだ、積極的にやっている学校とそうでない学校とでは若干の差があることは確かです。

あとは教員間での差です。教員の意識の差と、教員のスキルの差がありますので、これにつきましては、市でICTの研修会とかも開いておりますので、

各学校のICTの担当と上手に連携をとりながらその差を少しずつ埋めていきたいなと考えているところです。

子供のスキルに関しましては、各学校でどんどん使わせることによって、子供のスキルは上がってきています。

ただ、家庭学習になった場合に、先ほどのキュビナとかの学習であると、Wi-Fiの環境が整っていないと使えないものですので、その学習が出来ないという御家庭もありますので、各学校に是非、保護者の方の御協力をいただきたいということで、市として補助していること、どんどん周知をして可能な限りWi-Fiが使える環境を整えていきたいなというふうに思っているところです。以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

2点目が、読書の取組ってというのはどうなのでしょう。

教育創生監 宇野 勇気

率直に申し上げますと、子供たちの学校図書館の利用や、日常生活で読書をどのぐらいしているのかということに関してデータがかなり少ないです。

学校の先生に聞くと、定性的な情報として把握することは可能ですが、今、市教委の課題として感じているのは、まとまったデータがとれていないというところが、まず第一になると思います。

ここに関しては、全国の学力テストや美祿市で行っている学力テストのアンケート項目だけでは把握出来ていないので、追加で把握する必要があるというふうに思っています。

データのとり方として考えているのが、学校図書館には、全部の学校ではないのですが、入っているシステムがありますので、そこから1人当たりの年間貸出し数を出すこと自体は可能です。これもまだ出せていない状況です。

今年度に関しては、そのアンケートで、子供たちの情報を定性的にとり、出たものを量として見られるようにというのと、子供たち自身のアンケートの調査と実績から学校図書館の貸出の状況を把握しないと、今、美祿の子供たちがどんな本を年間どのぐらい読んで、どういった課題があるかというところまでは分析出来ていないという状況でございます。

教育長 南 順子

実は私が退職するときに、大田小学校を読書の学校にしたいと思い、朝学で読み聞かせをしておりました。今も大田小は、毎月1回金曜日に地域の方がそれぞれ各学年と特別支援学級に入って、読み聞かせをしています。私も職務専念の義務がありますから、年休をとって毎月第一金曜日は読み聞かせに行っています。今1年生を担当しています。それぞれ地域の方が、子供たちに本を読

み聞かせるという活動は、他の学校でもしているのではないかと思います。

また、いろいろ学校の中でも工夫をされて、朝の時間とかにできるだけ子供たちにも、読書の銀行じゃないですけども、読む意欲を高めるような手だてをしながら本と触れさせる取組をしています。

今、話がありましたようにデータとかをとっておりませんので、はっきりした事はわかりませんが、しっかり取り組みが進むように、市としても考えていけたらと思っております。

市長 篠田 洋司

小学校入っていきなり「本を読め」と言っても読まないと思うのです。

だから、幼稚園とか多分家庭でやっぱり小さいときに読んでほしい絵本教育とどうつなげていくかというのが非常に大事だろうと思います。

宇野創生監は、多分幼稚園とか認定こども園とか保育園とかになかなか入り込めないと思うのですよね。子育て支援課とその辺ちょっと連携して、絵本にも、小さい頃から触れさせていって、小学校ではこう読んでほしい、中学校はこう読んでほしいとか、何か逆にもうどんどんどん情報発信していくしかないと思うのですよね。でないと読書離れが進んでいきます。読書をして、本から学ぶということは非常に多いと思います。疑似体験とかも含めて。そして、読んだ後にやっぱり自分でぼーっと考える時間が非常に大事だと思うのです。

ですから、読書については、本当に子育て支援課と連携しながら進めていけたらと思う段階で、今度予算にどう反映させるのかということもあるのですけれど。経済的給付をするのではなくて、本当の子育て支援策にもつながっていくし、やはりそのときに触れていければですね、小学校でも間違いなく本に触れて本を読めば、自然と国語力というのは向上していく。コミュニケーション能力も向上していくと思うのです。

だから、そのようにやっていきたいと思っておりますので。また、子育て支援課に私のほうからきちんと説明しますので。

教育創生監 宇野 勇気

この場を借りて市長さんに一点お伝えしたいことがございます。皮肉なことにと申しますか、ICTが進んでキュビナというAIドリルの時間を、今まで朝の読書で使っていた時間を自由進度学習に使う学校が出ている中で、これは中島課長から伺った話ですが、学校によっては、その空いた時間を今までとは違う、タブレットがあることでそちらで勉強する。それはとても素晴らしいことだと思うのですけれど、学校として子供たちを取り巻く環境の中で、本、電子じゃなくて本に触れる機会が減っているのだろうなと理解をしています。

かといって今までやってきたこと、キュビナにしてもタブレットにしてもICTをどうバランスをとっていく必要があると思うので、考えていきたいなど

思っています。

市長 篠田 洋司

よろしくお願いします。ありがとうございます。

それとこれは私からの情報提供ですけど、来年4月に向けて司書を採用する準備を今進めております。

ですから、図書館を中心とした読書のイベントをどんどんしたり、本が好きな方ってというのはたくさんいらっしゃるの、司書がいい本をたくさん仕入れたりしてほしい。指定管理施設になると、どうしても雑誌類が増えるという傾向があるので、市のこういう施策と連携した、図書館運営ができると思いますので、私としては、司書をきちんと雇用して、市民の皆さんにより多く本に触れる、触れられる機会をつくっていききたいなと思います。

以上、私からは、情報提供とちょっとお伺いした点と、ありがとうございます。

そのほか、委員の皆様から、よろしいですか。

閉会

市長 篠田 洋司

貴重な御意見いただきまして本当にありがとうございます。

委員の皆様方からいただいた御意見を今後の施策に反映させてまいりたいと思います。

私の仕事はそれをきっちり予算化することだろうと思いますので、委員の皆様方からの御意見を大切にしながら、予算編成また事業協力をしてまいりたいと思います。

今後とも御指導いただきますことをお願い申し上げまして、この会を閉じたいと思います。

本当にありがとうございました。

(午後4時20分終了)